

教員の総合業績(基礎資料)調査 氏名(大沢英一)

1 研究業績

1) 著書・論文・学会発表・作品など(平成12-18年度に限る)

例:(欧文の場合は、原文 alphabet で記入してください)

#全著者あるいは作者名(自己にアンダーライン、単著の場合はアンダーライン不要)

&著書、学術論文又は作品の名称

\$発行所(総頁数)、発表雑誌又は発表学会(号・巻・pp・年月)、展覧会(場所・期間)

などの名称

さらに、特別講演・シンポジウム(招待講演)・一般講演など(地方支部会・全国大会・国際会議)の別

註:学会・展覧会など、専門分野以外の人に分りにくい場合は、できるだけその社会的
位置づけ、歴史、規模などの簡潔な説明を付してください

#大沢英一, 石田亨, 石塚満, 武田英明, 寺野隆雄, 本位田真一, 横尾真

&エージェントの社会的インパクト

\$情報処理48巻3号, pp. 278--285 (2007)

#登川誉史行, 大沢英一

&Webサービスにおけるエージェントサービスパターンの構築

\$第59回デジタル・ドキュメント研究報告2007-DD59, pp. 17--24 (2007)

#恵谷文彦, 大沢英一

&シナリオを用いた手続き的知識の共有管理

\$情報処理学会第69回全国大会予稿集, pp. 1S-6 (2007)

#中田克繁, 大沢英一

&ユーザインタラクションに基づく物語の動的自動生成

\$情報処理学会第69回全国大会予稿集, pp. 4Z-1 (2007)

#砂山享祐, 三上貞芳, 鈴木恵二, 大沢英一

&機械学習を用いた自律移動ロボット群における衝突回避行動獲得

\$ROBOMEC2007講演会, pp. 2A1-E19-1--4 (2007)

#砂山享祐, 三上貞芳, 鈴木恵二, 大沢英一

&実環境競合解消のための通信量を抑えた機械学習手法 —自律移動ロボット群の衝突回避問題—

\$ 情報処理学会第 69 回全国大会予稿集, pp. 5R-3-1-4 (2007)

#砂山享祐, 三上貞芳, 鈴木恵二, 大沢英一

&実環境競合解消のための通信量を抑えた機械学習手法

\$ SI2006 講演会, pp. 1N2-2, (2006)

#砂山享祐, 三上貞芳, 鈴木 恵二, 大沢 英一

&強化学習を用いた複数台の衝突回避行動獲得

\$ 日本機械学会ロボティクス&メカトロニクス講演会 06, (2006)

#石崎康太, 大沢英一

&BPEL と OWL-S を用いた Web サービスの自動合成に関する研究

\$ 第 68 回情報処理学会全国大会論文集, (2006)

#赤川智洋, 大沢英一

&インタラクティブな抽象表現における生命性

\$ 第 21 回 NICOGRAPH 論文コンテスト, (2005)

#岩淵圭悟, 赤川智洋, 大沢英一

&薫環境デザインシステム Aroma Conditioner

\$ 「感性情報処理の基礎と応用」およびヒューマン情報処理一般, ヒューマン情報処理研究会, (2005)

#高山貴裕, 大沢英一

&Web サービス技術を基盤としたモバイルエージェント

\$ 合同エージェントワークショップ&シンポジウム(JAWS-2005)講演論文集, (2005)

#高濱昌孝, 大沢英一

&空間分節化による注意決定の囲碁への適用

\$ 第 19 回人工知能学会全国大会論文集, 2005

#石田亨, 大沢英一, 鈴木恵二他

&スケールフリー社会のためのマルチエージェントアーキテクチャ

\$ 合同エージェントワークショップ&シンポジウム(JAWS2004)講演論文集論, pp6-13,

(2004)

#鈴木恵二, 三上貞芳, 大沢英一, 加藤浩仁

&小型芝刈りロボット群の協調作業の検討

\$日本機械学会 2004 年度年次大会講演論文集 Vol.5, pp287--288 (2004)

#斎藤文大, 大沢英一

&G-XML3.0によるコンテンツマップの作製

\$地理情報システム学会講演論文集, Vol. 13, pp439-442 (2004)

#Tomohiro Akagawa, Oh Gi-Dong, Ei-Ichi Osawa

&A study of Virtual-Form Modeling System Using Unexpectation.

\$In ACM SIGGRAPH 2004. Posters. (2004)

#Keiji Suzuki, Sadayoshi Mikami, Ei-Ichi Osawa

&Development of cooperative small mowing robots with charging station

\$Proc. of The 4th International Conference on Advanced Mechatronics (ICAMO4), pp. 617-622 (2004)

#Kota Ishizaki, Ei-Ichi Osawa, Keiji Suzuki, Sadayoshi Mikami, Koji Kato

&Design And Implemantation Of An Autonomous Cooperative Robot Simulator Using The OAA Agent Platform

\$ In Proceedings of 8th World Multiconference on Systemics, Cybernetics and Informatics, Vol. 2, pp. 87--92 (2004)

#鈴木恵二, 三上貞芳, 大沢英一, 加藤浩仁

&小型芝刈りロボット群の協調作業の検討

\$日本機械学会 2004 年度年次大会講演論文集 Vol.5, pp287--288 (2004)

#石崎康太, 大沢英一

&自律協調芝刈りロボットシステムにおける領域分割と作業スケジューリングの考察

\$日本機械学会 2004 年度年次大会講演論文集 Vol.5, pp289--290 (2004)

#石崎康太, 大沢英一, 鈴木恵二, 三上貞芳, 秋田純一

&エージェントプラットフォーム OAA を用いた自律協調ロボットシミュレータの実装と評

価

\$ 第 13 回インテリジェント・システム・シンポジウム講演論文集, pp. 172--175 (2003)

#高濱昌孝, 大沢 英一

&コンピュータ囲碁における分節化と注意に関する予備的考察

\$ 第 13 回インテリジェント・システム・シンポジウム講演論文集, pp. 72--75 (2003)

#鈴木恵二, 三上貞芳, 秋田純一, 大沢英一, 加藤浩仁

&小型芝刈りロボット群のスケジューリング戦略

\$ 第 4 回 SICE システムインテグレーション部門講演会 (SI2003) (2003)

#大沢英一

&マルチエージェント

\$ AI 事典, pp120-121 (2003)

#鈴木恵二, 三上貞芳, 秋田純一, 大沢英一

&小型芝刈りロボット群の開発と相互作業支援戦略

\$ 合同エージェントワークショップ (JAWS2002) 講演論文集論, pp518-519 (2002)

#大沢英一

&HAL's Legacy にみる人工知能の現状と将来

\$ 人工知能学会誌 Vol.16, No. 1, pp76-81 (2001)

#Bridging Real World and Shared Virtual Space

&Gi-Dong O, Osawa E, Kawashima T

\$ Proc. of 5th Asia Design Conference International Symposium 2001 (CD-ROM), (2001)

#呉起東, 大沢英一

&インタラクティブ VRML システム

\$ 日本ソフトウェア科学会第 18 回大会論文集, 2001 年 9 月 (CD-ROM により掲載頁不定), (2001)

#呉起東, 大沢英一

&実世界と仮想共有空間の実時間相互作用システム

\$ 情報処理学会第一回知的都市基盤研究グループ研究会, 情報処理学会研究報告 2001-MBL-18, 2001-ITS-6, pp175~pp179, (2001)

#Frank I, Tanaka-Ishii K, Matsubara H, Osawa E
&Walkie-Talkie MIKE
\$In Procs of 5th International Workshop on RoboCup (Seattle), (2001)

#呉起東, 大沢英一, 川嶋稔夫
&実世界と仮想共有空間の実時間相互作用に関する研究
\$「感性評価4」筑波大学感性評価構造モデル構築特別プロジェクト研究報告集 2000 pp501
~pp505, (2000)

2) 学会活動(役員・会員)、学会の組織運営、学会誌の編集委員など(平成12-18年度に限る)

例:

#学会などの名称
&編集委員長又は委員などの別
\$任務期間(年月)

註: 専門分野によっては適宜変更(例えば、学会を展覧会などと記す)・追加説明を付してください できれば展覧会・学会などについても社会的位置付け、歴史、規模などの簡潔な説明を添えてください

#日本ソフトウェア科学会
&理事
\$平成17年4月から平成19年3月まで

#AMC (Association for Computing Machinery)
&会員

#AAAI (American Association for Artificial Intelligence)
&会員

#情報処理学会
&会員

#人工知能学会
&会員

#1st International Workshop on Coordination and Control in Massively Multi-Agent Systems

&プログラム委員

\$平成17年12月から平成18年5月まで

#情報処理学会

&論文誌シニア査読委員

\$平成18年6月から平成21年5月まで

#情報処理学会

&「情報処理」48巻3号ゲストエディター

\$平成17年8月から平成18年3月まで

#第5回合同エージェントワークショップ&シンポジウム(JAWS06)

&プログラム委員

\$平成17年10月から平成18年12月まで

#5th International Joint Conference on Autonomous Systems and Multi-Agent Systems (AAMAS-06)

&実行委員長

\$平成17年7月から平成18年5月まで

#第4回合同エージェントワークショップ&シンポジウム(JAWS05)

&プログラム委員

\$平成16年12月から平成17年10月まで

#19th International Joint Conference on Artificial Intelligence (IJCAI-05)

&査読委員 (Reviewer)

\$平成16年7月から平成17年8月まで

#The First International Workshop on Massively Multiagent Systems (MMAS04)

&プログラム委員 (Program Committee Member)

\$平成16年5月から平成16年12月まで

#4th International Joint Conference on Autonomous Systems and Multi-Agent Systems

(AAMAS-05)

&プログラム委員 (Program Committee Member)

\$平成 16 年 8 月から平成 17 年 7 月まで

#日本ソフトウェア科学会

&第 21 回大会プログラム委員

\$平成 16 年 4 月から平成 16 年 9 月まで

#情報処理学会

&論文誌査読委員

\$平成 16 年 6 月 1 日から平成 18 年 5 月 31 日

#第 3 回合同エージェントワークショップ&シンポジウム (JAWS04)

&プログラム委員

\$平成 15 年 12 月から平成 16 年 10 月まで

#3rd International Joint Conference on Autonomous Systems and Multi-Agent Systems

(AAMAS-04)

&プログラム委員 (Program Committee Member)

\$平成 15 年 8 月から平成 16 年 7 月まで

#日本ソフトウェア科学会

&第 20 回大会プログラム委員

\$平成 15 年 4 月から平成 15 年 9 月まで

#第 2 回合同エージェントワークショップ&シンポジウム (JAWS03)

&プログラム委員

\$平成 14 年 12 月から平成 15 年 11 月まで

#2nd International Joint Conference on Autonomous Systems and Multi-Agent Systems

(AAMAS-03)

&上級プログラム委員 (Senior Program Committee Member)

\$平成 14 年 7 月から平成 15 年 7 月まで

#日本ソフトウェア科学会

&第 19 回大会プログラム委員

\$平成14年4月から平成14年9月まで

#第1回合同エージェントワークショップ&シンポジウム(JAWS02)

&プログラム委員

\$平成13年11月から平成14年12月まで

#5th Pacific Rim International Workshop on Multi-Agents(PRIMA02)

&プログラム委員

\$平成13年12月から平成14年8月まで

#1st International Joint Conference on Autonomous Systems and Multi-Agent Systems
(AAMAS-02)

&プログラム委員

\$平成13年7月から平成14年7月まで

#人工知能学会

&評議委員

\$平成13年4月から

#4th Pacific Rim International Workshop on Multi-Agents(PRIMA01)

&プログラム委員

\$平成13年4月から平成13年7月まで

#日本ソフトウェア科学会

&第18回大会運営委員長ならびにプログラム委員

\$平成13年4月から平成13年9月まで

#2nd Kyoto Meeting on Digital Cities

&プログラム委員

\$平成13年1月から平成13年10月まで

#人工知能学会

&学会誌編集委員

\$平成12年4月から平成13年度3月

#日本ソフトウェア科学会 マルチエージェントと協調計算研究会

&ワークショッププログラム委員

\$平成12年1月から現在に至る

#英文ジャーナル New Generation Computing

&企画委員

\$平成12年1月から平成13年3月まで

#(財)日本情報処理開発協会ネットワークエージェント技術委員会

&委員

\$平成12年1月から平成13年3月まで

#4th International Conference on Multi-Agent Systems (ICMAS-00)

&プログラム委員

\$平成12年1月から平成12年7月まで

#17th International Joint Conference on Artificial Intelligence (IJCAI-01)

&プログラム委員

\$平成12年12月から平成13年8月まで

3) 研究費獲得状況(未来大学外からの財源)(科学研究費、財団助成金、委任経理金など)

(平成12-18年度に限る)

例:

#平成12-(13)年度

&財源、たとえば科学研究費補助金

\$研究課題名

%代表者、分担者の別、研究課題参加者数、あるいは〇〇研究所との共同研究(相手機関の協同研究者数など)

¥研究経費(例:平成12年度:800千円、平成13年度:500千円)

#平成16-(17)年度

&科学研究費補助金基盤研究(C)

\$異機種小型自律ロボット群の相互作用方式と外部計算資源活用に関する研究

%分担者, 5名

¥2,200千円

#平成 15-(16)年度

&科学研究費補助金基盤研究(C)

\$小型ロボット群による動的作業分担を基盤とする分散協調芝刈システムの研究開発

%分担者, 5名

¥3,300千円

#平成 15-(16)年度

&科学研究費補助金基盤研究(C)

\$屋外作業マップ獲得を伴う小型芝刈りロボット群の動的組織再編に関する研究

%分担者, 5名

¥3,700千円

#平成 14年度

&受託研究費

\$知的クラスター創成事業「札幌 IT カロツェリアの創成」構想

%分担者, 18名

¥47,425千円

#平成 13-(14)年度

&科学研究費補助金

\$ロボカップレスキューシミュレータの開発

%分担者

¥

#平成 13年度

&受託研究費

\$サイバーシティの開発

%代表者、コムテック 2000 との共同研究

¥500千円

#平成 13年度

&受託研究費

\$自然言語対話システムの開発

%代表者, 2名, 翼システムとの共同研究

¥800千円

#平成 12 年度

&受託研究費

\$サイバーシティの開発

%代表者、コムテック 2000 との共同研究

¥500 千円

4) その他(特許、内地研究(学内共同研究は除外)および在外研究歴と成果など特記すべきこと。本項目は平成 12-18 年度に限定しない。)

2 教育業績

1) 教育負担の実態(複数教員で担当する科目の場合は、貴方の分担分のみ)本項目は時間割に含まれた教科(補講・補習など教室で行なったものは含む)を調査の対象としております。従って、〇〇研究会、〇〇同好会など、各教員室他で行なったものは、対象外とします。試験やレポートなどの採点時間も除外します。

例:

#科目名(講義・演習・実習・補講の別)、単位数・必修/選択の別、担当教員数(単独の場合は不要)

&実施期間(平成 12 年度前期、あるいは平成 13 年 10-11 月)、実施コマ数(休講しても補講で補えば算定する)、補講をしなかった休講回数(例:実施 13 コマ、休講 2 コマ)

\$実働時間数(全て、実時間合計(推定)値でお願いします)、演習などは一コマ 1.5 時間を超えていると思われるので、そのような場合は、たとえば一コマ 2.2 時間などと算定してください(例:実働 22.5 時間)

%受講登録学生数(例:45 名)、平均的出席者数(例:38 名;初めは 40 名、終りは 25 名など)、単位認定(合格)者数

註:本項目はできるだけ正確にお願いしたいですが、概数でも結構です 記述がない場合は 0 と判断します

#システム情報科学研究(研究科目)、単位数 4、必修、担当教員数 1

&実施期間(平成 18 年度前後期)、実施コマ数(60 コマ)

\$実働時間数(90 時間)

%受講登録学生数(3 名)、平均的出席者数(3 名)、単位認定(合格)者数 3

#特別ゼミナール(研究科目)、単位数、必修、担当教員数 1

&実施期間（平成 18 年度前後期）、実施コマ数（30 コマ）
\$実働時間数（45 時間）
%受講登録学生数（1 名）、平均の出席者数（1 名）、単位認定（合格）者数 1

#卒業研究（研究科目）、単位数 8、必修、担当教員数 1
&実施期間（平成 18 年度前後期）、実施コマ数（60 コマ）
\$実働時間数（90 時間）
%受講登録学生数（3 名）、平均の出席者数（3 名）、単位認定（合格）者数 3

#課題研究Ⅰ（研究科目）、単位数 2、必修、担当教員数 1
&実施期間（平成 18 年度前期）、実施コマ数（15 コマ）
\$実働時間数（22.5 時間）
%受講登録学生数（3 名）、平均の出席者数（3 名）、単位認定（合格）者数 3

#課題研究Ⅱ（研究科目）、単位数 2、必修、担当教員数 1
&実施期間（平成 18 年度後期）、実施コマ数（15 コマ）
\$実働時間数（22.5 時間）
%受講登録学生数（2 名）、平均の出席者数（2 名）、単位認定（合格）者数 2

#課題研究Ⅲ（研究科目）、単位数 2、必修、担当教員数 1
&実施期間（平成 18 年度前記）、実施コマ数（15 コマ）
\$実働時間数（22.5 時間）
%受講登録学生数（3 名）、平均の出席者数（3 名）、単位認定（合格）者数 3

#システム情報科学実習Ⅱ（実習）、単位数 2、必修、担当教員数 3
&実施期間（平成 18 年度後期）、実施コマ数（15 コマ）
\$実働時間数（22.5 時間）
%受講登録学生数（8 名）、平均の出席者数（8 名）、単位認定（合格）者数 7

#人工知能Ⅱ（講義）、単位数 2、選択
&実施期間（平成 18 年度後期）、実施コマ数（15 コマ）
\$実働時間数（22.5 時間）
%受講登録学生数（103 名）、平均の出席者数（85 名）、単位認定（合格）者数 74

#分散協調システム（講義）、単位数 2、選択
&実施期間（平成 18 年度後期）、実施コマ数（14 コマ）

\$実働時間数 (21.0 時間)

%受講登録学生数 (76 名)、平均的出席者数 (19 名)、単位認定 (合格) 者数 19

#エージェントシステム特論 (講義)、単位数 2、選択

&実施期間 (平成 18 年度前期)、実施コマ数 (15 コマ)

\$実働時間数 (22.5 時間)

%受講登録学生数 (4 名)、平均的出席者数 (4 名)、単位認定 (合格) 者数 4

#システム情報科学概論 (講義)、単位数 2、必修

&実施期間 (平成 18 年度前期)、実施コマ数 (1 コマ)

\$実働時間数 (1.5 時間)

%受講登録学生数 (270 名)、平均的出席者数 (270 名)、単位認定 (合格) 者数 270

#システム情報科学実習 I (実習)、単位数 2、必修、担当教員数 3

&実施期間 (平成 18 年度前期)、実施コマ数 (15 コマ)

\$実働時間数 (22.5 時間)

%受講登録学生数 (8 名)、平均的出席者数 (8 名)、単位認定 (合格) 者数 8

#人工知能 I (講義)、単位数 2、必修

&実施期間 (平成 18 年度前期)、実施コマ数 (15 コマ)

\$実働時間数 (22.5 時間)

%受講登録学生数 (93 名)、平均的出席者数 (90 名)、単位認定 (合格) 者数 79

#システム情報科学実習 II (実習)、単位数 2、必修、担当教員数 2

&実施期間 (平成 17 年度後期)、実施コマ数 (15 コマ)

\$実働時間数 (22.5 時間)

%受講登録学生数 (14 名)、平均的出席者数 (14 名)、単位認定 (合格) 者数 14

#人工知能 II (講義)、単位数 2、選択

&実施期間 (平成 17 年度後期)、実施コマ数 (15 コマ)

\$実働時間数 (22.5 時間)

%受講登録学生数 (74 名)、平均的出席者数 (62 名)、単位認定 (合格) 者数 52

#分散協調システム (講義)、単位数 2、選択

&実施期間 (平成 17 年度後期)、実施コマ数 (14 コマ)

\$実働時間数 (21.0 時間)

%受講登録学生数 (41 名)、平均的出席者数 (21 名)、単位認定 (合格) 者数 20

#エージェントシステム特論 (講義)、単位数 2、選択

&実施期間 (平成 17 年度前期)、実施コマ数 (15 コマ)

\$実働時間数 (22.5 時間)

%受講登録学生数 (22 名)、平均的出席者数 (12 名)、単位認定 (合格) 者数 10

#システム情報科学概論 (講義)、単位数 2、必修

&実施期間 (平成 17 年度前期)、実施コマ数 (1 コマ)

\$実働時間数 (1.5 時間)

%受講登録学生数 (270 名)、平均的出席者数 (270 名)、単位認定 (合格) 者数 270

#システム情報科学実習 I (実習)、単位数 2、必修、担当教員数 3

&実施期間 (平成 17 年度前期)、実施コマ数 (15 コマ)

\$実働時間数 (22.5 時間)

%受講登録学生数 (14 名)、平均的出席者数 (14 名)、単位認定 (合格) 者数 14

#人工知能 I (講義)、単位数 2、必修

&実施期間 (平成 17 年度前期)、実施コマ数 (15 コマ)

\$実働時間数 (22.5 時間)

%受講登録学生数 (96 名)、平均的出席者数 (83 名)、単位認定 (合格) 者数 74

#エージェントシステム特論 (講義)、単位数 2、選択

&実施期間 (平成 16 年度後期)、実施コマ数 (15 コマ)

\$実働時間数 (22.5 時間)

%受講登録学生数 (14 名)、平均的出席者数 (9 名)、単位認定 (合格) 者数 6

#システム情報科学実習 II (実習)、単位数 2、必修、担当教員数 2

&実施期間 (平成 16 年度後期)、実施コマ数 (15 コマ)

\$実働時間数 (22.5 時間)

%受講登録学生数 (14 名)、平均的出席者数 (14 名)、単位認定 (合格) 者数 14

#人工知能 II (講義)、単位数 2、選択

&実施期間 (平成 16 年度後期)、実施コマ数 (15 コマ)

\$実働時間数 (22.5 時間)

%受講登録学生数 (50 名)、平均的出席者数 (46 名)、単位認定 (合格) 者数 46

#分散協調システム（講義）、単位数 2、選択

&実施期間（平成 16 年度後期）、実施コマ数（14 コマ）

\$実働時間数（21 時間）

%受講登録学生数（34 名）、平均的出席者数（9 名）、単位認定（合格）者数 8

#システム情報科学概論（講義）、単位数 2、必修

&実施期間（平成 16 年度前期）、実施コマ数（3 コマ）

\$実働時間数（4.5 時間）

%受講登録学生数（249 名）、平均的出席者数（249 名）、単位認定（合格）者数 241

#システム情報科学実習Ⅰ（実習）、単位数 2、必修、担当教員数 2

&実施期間（平成 16 年度前期）、実施コマ数（15 コマ）

\$実働時間数（22.5 時間）

%受講登録学生数（14 名）、平均的出席者数（14 名）、単位認定（合格）者数 14

#人工知能Ⅰ（講義）、単位数 2、必修

&実施期間（平成 16 年度前期）、実施コマ数（15 コマ）

\$実働時間数（22.5 時間）

%受講登録学生数（96 名）、平均的出席者数（83 名）、単位認定（合格）者数 74

#プログラミング演習（演習）、単位数 2、必修、2

&実施期間（平成 16 年度前期）、実施コマ数（28 コマ）

\$実働時間数（42 時間）

%受講登録学生数（34 名）、平均的出席者数（34 名）、単位認定（合格）者数 33

#エージェントシステム特論（講義）、単位数 2、選択

&実施期間（平成 15 年度後期）、実施コマ数（15 コマ）

\$実働時間数（22.5 時間）

%受講登録学生数（5 名）、平均的出席者数（4.5 名）、単位認定（合格）者数 3

#システム情報科学実習Ⅱ（実習）、単位数 2、必修、担当教員数 2

&実施期間（平成 15 年度後期）、実施コマ数（15 コマ）

\$実働時間数（22.5 時間）

%受講登録学生数（5 名）、平均的出席者数（5 名）、単位認定（合格）者数 5

#人工知能Ⅱ（講義）、単位数2、選択

&実施期間（平成15年度後期）、実施コマ数（15コマ）

\$実働時間数（22.5時間）

%受講登録学生数（57名）、平均的出席者数（51名）、単位認定（合格）者数 34

#分散協調システム（講義）、単位数2、選択

&実施期間（平成15年度後期）、実施コマ数（14コマ）

\$実働時間数（21時間）

%受講登録学生数（27名）、平均的出席者数（23名）、単位認定（合格）者数 26

#システム情報科学概論（講義）、単位数2、必修

&実施期間（平成15年度前期）、実施コマ数（3コマ）

\$実働時間数（4.5時間）

%受講登録学生数（250名）、平均的出席者数（250名）、単位認定（合格）者数 不明

#システム情報科学実習Ⅰ（実習）、単位数2、必修、担当教員数2

&実施期間（平成15年度前期）、実施コマ数（15コマ）

\$実働時間数（22.5時間）

%受講登録学生数（5名）、平均的出席者数（5名）、単位認定（合格）者数 5

#プログラミング演習（演習）、単位数2、必修、2

&実施期間（平成15年度前期）、実施コマ数（28コマ）

\$実働時間数（42時間）

%受講登録学生数（43名）、平均的出席者数（42名）、単位認定（合格）者数 41

#人工知能Ⅰ（講義）、単位数2、必修

&実施期間（平成15年度前期）、実施コマ数（15コマ）

\$実働時間数（22.5時間）

%受講登録学生数（96名）、平均的出席者数（80名）、単位認定（合格）者数 81

#システム情報科学実習Ⅱ（実習）、単位数2、必修

&実施期間（平成14年度後期）、実施コマ数（15コマ）

\$実働時間数（22.5時間）

%受講登録学生数（17名）、平均的出席者数（17名）、単位認定（合格）者数 17

#人工知能Ⅱ（講義）、単位数2、選択

&実施期間（平成 14 年度後期）、実施コマ数（15 コマ）

\$実働時間数（22.5 時間）

%受講登録学生数（56 名）、平均的出席者数（49 名）、単位認定（合格）者数 34

#分散協調システム（講義）、単位数 2、選択

&実施期間（平成 14 年度後期）、実施コマ数（14 コマ）

\$実働時間数（21 時間）

%受講登録学生数（54 名）、平均的出席者数（47 名）、単位認定（合格）者数 48

#システム情報科学概論（講義）、単位数 2、必修

&実施期間（平成 14 年度前期）、実施コマ数（3 コマ）

\$実働時間数（4.5 時間）

%受講登録学生数（250 名）、平均的出席者数（250 名）、単位認定（合格）者数 不明

#システム情報科学実習Ⅰ（実習）、単位数 2、必修

&実施期間（平成 14 年度前期）、実施コマ数（15 コマ）

\$実働時間数（22.5 時間）

%受講登録学生数（17 名）、平均的出席者数（17 名）、単位認定（合格）者数 17

#プログラミング演習（演習）、単位数 2、必修、2

&実施期間（平成 14 年度前期）、実施コマ数（28 コマ）

\$実働時間数（42 時間）

%受講登録学生数（42 名）、平均的出席者数（32 名）、単位認定（合格）者数 42

#人工知能Ⅰ（講義）、単位数 2、必修

&実施期間（平成 14 年度前期）、実施コマ数（15 コマ）

\$実働時間数（22.5 時間）

%受講登録学生数（81 名）、平均的出席者数（78 名）、単位認定（合格）者数 66

#人工知能Ⅱ（講義）、単位数 2、選択

&実施期間（平成 13 年度後期）、実施コマ数（14 コマ）

\$実働時間数（21 時間）

%受講登録学生数（40 名）、平均的出席者数（37 名）、単位認定（合格）者数 25

#情報アーキテクチャ演習（演習）、単位数 2、必修、2

&実施期間（平成 13 年度前期）、実施コマ数（30 コマ）

\$実働時間数 (75 時間)

%受講登録学生数 (81 名)、平均的出席者数 (78 名)、単位認定 (合格) 者数 77

#人工知能Ⅰ (講義)、単位数 2、必修

&実施期間 (平成 13 年度前期)、実施コマ数 (15 コマ)

\$実働時間数 (22.5 時間)

%受講登録学生数 (81 名)、平均的出席者数 (78 名)、単位認定 (合格) 者数 69

#プログラミング演習 (演習)、単位数 2、必修、2

&実施期間 (平成 12 年度後期)、実施コマ数 (14 コマ)

\$実働時間数 (42 時間)

%受講登録学生数 (41 名)、平均的出席者数 (39 名)、単位認定 (合格) 者数 31

#プログラミング演習 (演習)、単位数 2、必修、2

&実施期間 (平成 12 年度前期)、実施コマ数 (30 コマ)

\$実働時間数 (90 時間)

%受講登録学生数 (82 名)、平均的出席者数 (80 名)、単位認定 (合格) 者数 78

#東京工業大学理学部情報科学科計算機科学特別講義第一 (講義)、単位数 2、選択

&実施期間 (平成 13 年度後期)、実施コマ数 (14 コマ)

\$実働時間数 (21 時間)

%受講登録学生数 (32 名)、平均的出席者数 (15 名)、単位認定 (合格) 者数 10

2) 成績評価方法 (その方法を具体的に記載・学生 (社会) が納得するような具体的説明。)

また、複数の教員で担当する科目の場合は、取りまとめの方法についても記述してください。

中間試験、期末試験、課題レポート、および演習課題の総合評価による。

プログラミング演習に関しては、毎週の演習課題の成績および 3 回の定期試験の総得点による。

システム情報科学実習については、出席、目標課題の達成状況、レポートの完成度、発表の内容などから総合的に判断した。

3) 講義方法など改善への努力 (FD 関連の講演会などの聴講回数、教育内容とそれらの効果について貴方が行われた事柄・目標を具体的に記述して下さい)。

(1) ウェブページの活用

講義専用のウェブページを作成し、そのページにアクセスすることで講義に関するあらゆる情報を閲覧可能とした。ウェブページの内容は、講義計画、更新内容一覧、講義ノート、課題、ラボ演習、演習問題と解答例、資料、参考図書、用語集、FAQ、講義理解度調査である。特に毎回の講義ノート(講義の概要をまとめたノート)を事前に公開することで、予習の範囲とポイントが明確になり、学生は効率よく講義の準備をすることができた。また、専門用語を解説した専用ページを設けることで、講義での不明瞭な点が解消され、予習復習の効率が上がった。FAQ は講義内容に関する質問に関する解答であり、これは以下で述べる講義理解度調査で調べた質問内容に関して答えるものであり、学生の疑問解消を助けた。

(2) 講義理解度調査の活用

毎回の講義時に、その回に講義する詳細項目の理解度を調査するためのアンケート用紙を配布し、学生に三段階(よく理解できた、だいたい理解できた、よく理解できなかった)で記入させて回収した。各項目に関する理解度の平均点(よく理解できた -3点-, だいたい理解できた -2点-, よく理解できなかった -1点-)を求め、このアンケート調査の結果は、毎回、上記の講義用ウェブページに掲載した。各項目について理解度の平均点が2点を超えることを目標とし、理解度が悪いものに関しては、次回の講義で補足的な説明を行ったり演習課題を講義中に行い、理解が深まるように工夫した。このように必要項目の補足を行うことで、理解の度合いをあげ、また、効率よく講義を行うことができた。

(3) 小テストの活用

重要な項目および上記の理解度が低かった項目に関しては、次回の講義の最初に小テスト(演習問題)を行い、理解が向上するようつとめた。

4) その他(上記以外に特記すべきことがありましたら、簡潔かつ具体的に、箇条書きなどで記述してください。特に、貴方が作られたシラバスと現在教務委員会で検討されている(コース別)講義内容・目標、あるいは JABEE などとの関連、並びに貴方が担当されている科目の位置付けなどについてご意見があれば記して下さい。また、本学は教員の専門分野が多岐にわたっているため、相互理解を目的としたコース特有の問題点や、皆さんの教育に対する抱負などを記述して戴いても結構です。)

3 大学の管理運営

各種委員会(委員長・委員、クラス担任、学習指導・生活指導、クラブ活動の顧問等の実績(具体的に記述してください、できれば実働延べ時間数など)、その他。

平成 18 年度:大学院システム情報科学研究科長(300 時間), 就職委員会委員, 広報委員会委員, 自己評価委員会委員, 入試委員会委員, テニス部顧問

平成 17 年度:大学院システム情報科学研究科長(300 時間), 就職委員会委員, インターンシップ WG 委員, 広報委員会委員, 自己評価委員会委員, 入試委員会委員

平成 16 年度:情報アーキテクチャー学科長(300 時間), 情報ライブラリー長(30 時間), 就職委員会委員, インターンシップ WG 委員, 広報委員会委員, 自己評価委員会委員, 入試委員会委員

平成 15 年度以前:教務委員会委員長(350 時間)、新施設委員会委員(43 時間), 新システム委員会委員(60 時間)、テニスサークル顧問、産学連携委員会委員、コミュニケーションセンター委員、施設計画委員会委員、大学院計画委員会委員(50 時間)

4 その他

資格(技術士など)、地域への貢献(地域自治体審議会、委員会等の役員、委員。地域との共同研究・技術相談。公開講座・出前授業・市民向け講演)あるいは提言・御意見など

「50 年後の函館を考える」シンポジウム講演

2002 年度 ACM ICPC アジア地区大会函館大会併設講演会(「プログラミングってなんだろう?」)

函館市 IT 活用方策研究会委員

上磯町成人大学公開講座

青少年のためのクリスマスワークショップ講演

コムテック 2000 (函館市内企業)との共同研究

その他多数。